

社会保障領域のインフルエンサーを目指す医療法人東西会グループ

連載 126 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック理事長
橋本 満義 (69歳・内科)

「私はどこも悪くない」と言い張る、超高齢者女性(86歳)認知症のA子さん。今日は、救急車でどこへお散歩か？



最近の定期訪問“在宅医療”での出来事です。

某高齢者施設へ出向いた時、
「A子さんの症状はいかがですか？」と私がスタッフに問うと、「食事も排泄も異変ありませんが、右足首が痛そうです」と答えました。そして私は、A子さんが白衣を嫌うので私服で居室に入りました。それはあくまで、認知症患者さんの価値観に合わせるためです。

「A子さん、いつもお元気ですね。足首もお元気ですか？」そう言って足首に触ると、A子さんは少々痛そうにしますが「どこも痛くないぞ。何をするのか?!」と言うのです。そこで私は、健康診断と称しポータブルレントゲン検査を実施しました。

40分後、A子さんは高度機能病院へ救急搬送となりました。診断は“転倒による右腓骨下部骨折”だったのです。

“在宅医療”業務は人を育む。

私は「私の“人生観”や“死生観”とは？」とか「人生の価値とは？」などと、70歳を間近に控えて、町の哲学者気取りになっていることに気づきました。

「人間50年……」とは、昔の話です。今は「人生100年……」と言われる時代になりました。

実年齢90歳は、その存在だけで人生学の師匠である患者さん
実年齢70歳は、それに学ぶ在宅医療・訪問医師の私
実年齢30歳は、その助手で“人生学”の大切さに目覚める

私は、自由な発想で個人が活かされていると思っっているようなタイプの人間です。この在宅医療を通してたくさんの患者さんの“人生観”に出会い、そして自然と哲学をすることとなったのです。

～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉

人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)
現場の人たちを救命救急士として教育する
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。

外来診療 (かかりつけ医)

総合内科・漢方診療科

お医者さんが来てくれる 24時間・365日体制で対応 (松山市全域)

要予約

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 18名

内科・外科専門医 16名
(国立がんセンター勤務歴有3名)

麻酔科専門医 2名
(ペインクリニック科)

末期がん治療(緩和ケア)相談室開設!

(医)東西会イメージキャラクター「イチゴ・ツル・カメ」
三世代の「絆」を表すキャラクターです。
イチゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

国立愛媛大学附属病院臨床研究協力機関
大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関
関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9
Tel:089-933-3788
<http://www.touzaikai.jp/>